

The tip of an

ICeberg

アイシーバーグ
サクラニュースレター

No. 9

冬号

The tip of an ICeberg=氷山の一角

感染制御は見える部分だけでなく、見えない部分に多くの課題があることの象徴です



| 2018 | Winter |

Contents

感染制御トピック

地方の中材あれこれ

ベトナムの病院における感染対策

[イベントレポート]

感染対策週間(社会医療法人 敬和会 大分岡病院様)

サクラとぴあの思い

サクラとぴあにて、勉強会を実施

感染制御トピック 地方の中材あれこれ

福井大学医学部附属病院 手術部副部長、滅菌管理部長
佐藤一史

北陸地方(福井, 石川, 富山の3県)は日本の中央に位置するが、あまり目立たない地域かも知れない。平成27年に北陸新幹線が金沢まで開通したが、その御零れで福井県への観光客も増加しているようである。東尋坊や永平寺は定番だが、勝山市の恐竜博物館も人気上昇中である。11月にはズワイガニ漁が解禁され、海の幸は絶品揃いの季節に入る。ぜひご来福ください。

【滅菌管理部(中材)の苦悩】

私は平成15年に手術部・材料部(現滅菌管理部)に赴任した。翌平成16年には独立行政法人化に伴い福井医科大学は福井大学に統合された。その後は緊縮財政、予算削減の一途を辿り、現在では予算確保は最も頭の痛い問題の一つである。中材の大型機器に関しては概算要求で6~10年に一度の更新は何とかされてきたが、今後は老朽化のまま長期間使用せざるを得ない可能性もある。金はない、出るのは溜息ばかりで「親方日の丸」の時代が懐かしい今日この頃である。中材は「非採算部門」としてとかく評価が低いが、器材の洗浄・滅菌なくして手術は不可能であり、手術部門とセットと考えるべきものである。

中材職員の確保は特に地方では厳しい状況と思う。当院ではパート職員を雇用する体制が開院以来続いている。中材の使命は「質の高い洗浄・滅菌器材の提供」であり、これには豊富な知識と高い技術が要求され、またそのレベル維持も容易ではない。全くの素人への教育には時間と労力が必要で、スキルアップには学会や研究会への参加も必須である。費用もばかにならず、ドロップアウトが多いのも悩みの種である。数年前、レベルアップと人材流出防止の意味で、滅菌技師・士資格取得者を契約社員に昇格させるインセンティブを導入した。その甲斐あってか有資格者が増え、現在は1種滅菌技師1名、2種滅菌技師6名を含め総勢14名で何とか稼働できている。

【地方の研究会】

平成21年、北陸地方での中材業務や感染対策の啓蒙、そして滅菌技師・士ポイントが獲得できる「北陸中材業務・感染対策研究会」を立ち上げた。準備その他でサクラ精機さんには大変お世話になり改めて感謝申し上げたい。現在、北陸3県の4大学が持ち回りで年末に開催しており、平成30年には第10回の節目の会を富山市で予定している。今後多数ご参加いただければ幸いである。

【中材の話題】

《滅菌装置》高圧蒸気滅菌器はサクラ精機社製を開院以来使用して現在5代目になるが、そのクオリティーの



高さには日頃から敬服している次第である。EOG滅菌器も長らく同社製を使用してきたが、平成26年の新築移転を機に全てホルマリン滅菌に移行した。EOG廃止に向けての取り組みで対象器材が減少していたこともあり、移行はスムーズであった。《プリオン病》騒動から約10年経ったが、各医療施設や脳神経外科学会もパニック状態に陥ったことはまだ記憶に新しい。直後に厚労省ガイドラインも発行され、程無くして混乱は収拾されたが、依然燻っている問題もある。《短時間判定BI》以前はリコールが年2回程度あったが、ほとんどはBI自体のトラブルであり(判定前払い出しによる)、「真の」リコールはCI変色を見逃した1回のみであった。現在、高圧蒸気滅菌1時間、過酸化水素ガス滅菌では30分以内に判定可能なBIが実用化されリコールの危険性は軽減された。こうした技術の進歩は大変有り難いものである。《バリデーション》は最近注目の話題である。大変重要な問題で滅菌ガイドラインにも詳細が記載されたが、空転状態にある。これにも経費の問題が大きく絡んでくる。《単回使用器材(SUD)の再使用》は学会等で随分前から議論されてきたが、ここ数年時々マスコミを賑わせている。最近、ドリルバーの再使用が取り沙汰されたのには正直驚いた。類似のものがメーカーにより再生使用可能であったり単回使用であったりしているのである。メーカー側の認識を変えてほしい部分でもある。日本でも米国式の再生システムを導入する動きがあるようで期待したい。内視鏡手術用器材はSUDが非常に多くかつ高価である。今後は病院の財布に優しい器材が増えることも願いたい。《トレーサビリティ》新築移転に伴い、鋼製小物や洗浄・滅菌装置の情報をリアルタイムに把握できる「総合滅菌管理システム」を導入した(写真)。学会や論文でも報告しているので詳細は省くが、興味のある方はぜひ見学におこしください。

中材関連でも色々な問題があるが、一つ一つ解決されていくことを願って筆を置く。

ベトナムの病院における感染対策

国立国際医療研究センター 国際医療協力局 客員研究員
JICAチョーライ病院向け病院運営管理・管理能力向上支援プロジェクト 専門家(感染管理・看護管理)
黒須一見



チョーライ病院外観

私は現在JICAプロジェクトの専門家として、ベトナム社会主義共和国のホーチミンシティに赴任しています。ベトナム南部にある国内最大規模の国立チョーライ病院(約1,900床)で、技術協力プロジェクトとして主に感染管理と看護管理の業務を行っています。チョーライ病院は1975年に日本の無償資金協力によりベトナム戦争のさなかに建設され、現在は患者数が非常に多く、負荷を軽減するため、数年後に日越友好病院(約1,000床)の建設が予定されています(有償資金協力事業)。現在、チョーライ病院で働く職員と新たに日越友好病院へ配置される人材のための技術支援が私たちのミッションであり、現在、私を含めた4名の専門家が派遣されています。プロジェクトの詳細はこちらのサイトをご覧ください。<https://www.jica.go.jp/project/vietnam/044/>

ベトナムでは、リファラルという医療制度があり、コミュニティ、群病院、省病院、大規模病院の順に規模が大きくなっており、機能も強化されています。本来は病気になった際、コミュニティや地域の郡・省病院にかかることが望ましいのですが、高度医療を求め、直接大規模病院にかかってしまう患者が多く、チョーライ病院は大変混雑しています。このため、定床1,900床に実際は2,800~3,000人の患者が入院しています。ストレッチャーを使用し、かろうじて1人1ベッドは死守していますが、ベッドの間隔はほとんどありません。また外来患者は5,000人、手術数は100件/日、透析患者数は220人/日というようにすべてがこれまで経験したことのない規模です。

病院感染管理体制は整備されており、感染制御部は2000年より活動を開始し、下位病院への感染対策の指導を実践するなど重要な役割も担っています。現在は部長医師を含む7名(医師、看護師、技師)で構成され、主な業務内容は、各部署の環境ラウンド、感染症患者判定ラウンド、サーベイランス、手指衛生遵守状況のモニタリング、感染対策に関するキャンペーンや研修会の実施、研究活動などです。

さまざまな活動を実践しているものの、病床稼働率が恒常的に100%を超えベッドが不足し、患者があふれている状況



研修会の様子

から隔離対策が困難であり、近年では下位病院等からの多剤耐性菌感染症患者も増加し、特に*Acinetobacter baumannii*感染症の増加が問題となっています。こ

んな状況のなかで、まずどこから手をつけたらよいものかと最初はとまどいましたが、日本の病院にいたときのように、『まずは現場を視ること』から開始し、感染制御部のスタッフのラウンドに同行し、約2週間かけてすべての病棟(34病棟)をまわりました。そのなかで問題と思われることをピックアップし、人材育成、基本的な感染対策、なかでも手指衛生の遵守率の向上、人工呼吸器関連肺炎の低減、手術部位感染の低減、抗菌薬適正使用に向けた管理強化などの目標を計画し、現在はこの計画に沿ってカウンターパートと対策を進めています。幸いなことにチョーライ病院の職員の方はとても親日家で、また日本の感染対策にとっても興味を持っています。

人材育成では、日本のリンクナース制度のような現場の感染対策を推進する人を全部署に配置するため、人材の選定と教育計画を立案し、10月~11月に3回の研修会を実施しました。2018年1月にさらにフォローアップ研修を行い修了者に認定証を発行します。

また、人工呼吸器は院内に120台あるものの常に不足状態で、人工呼吸器関連肺炎も多いことから、人工呼吸器関連肺炎予防のためのケアバンドルを感染制御部と検討し、実践に向けてトレーニングを開始しました。日越友好病院が無事に開設しスタッフが派遣されて業務が開始されるまでこれらの対策は継続されます。日本で培った感染管理のノウハウを生かし、チョーライ病院、日越友好病院の感染対策に繋げていけることが私の目標です。

2017年4月より赴任し、約9か月が経過しました。長期の海外滞在は初めての経験であり、まず生活に慣れること、ベトナム文化に慣れることから始まり、病院のベースライン調査や感染管理業務が一気に押し寄せてあっという間に2017年が終わってしまったという感じです。2019年3月19日~22日にベトナムのダナンで、The 9th Asia Pacific Society of Infection Control (APSIC2019)が開催されます。大会長は私のカウンターパートである感染制御部長のLe Thi Anh Thu先生で、私も微力ながらお手伝いさせていただき予定です。会場のダナンはベトナム屈指のリゾートで食べ物も美味しいです。日本の感染管理認定看護師や感染対策チームのみなさんもぜひポスター発表をしませんか?

ホームページも立ち上がりましたので、ぜひご覧ください。

<http://apsic2019.com/>



APSIC2019のホームページ画面

[イベントレポート] 感染対策週間 (社会医療法人 敬和会 大分岡病院様)



地域から応募された感染予防ポスター



近隣公民館での感染予防講座での風景

募集・院内掲示、患者様への手洗い指導、近隣公民館等での感染予防

大分岡病院様の感染対策週間イベント(2017.10.16~20)を見学させていただく機会があり、誌面を借りてご紹介いたします。このイベントは、国際感染管理週間(毎年10月第3週)に合わせ2011年から催されています。

主な目的は、①感染管理活動の推進、②医療従事者に対し感染管理の理解度を深め、手指衛生の遵守率を向上させる、③地域の方々への感染予防の啓蒙となります。活動内容としては、院内職員および近隣の小学校、幼稚園、保育園を対象に感染予防に関するポスター

講座開催、幼稚園・保育園へのお出張手洗い指導、手洗いチェッカーを用いた全職員への手洗い評価などを実施されているそうです。スタッフの皆様が患者様や地域の方々に手洗いの大切さをわかりやすく丁寧にご指導されている場面を拝見して、皆様「感染予防を地域に浸透させたい」という強い思いが伝わって参りました。

また、近隣の公民館にて開催された感染予防講座では、当社ハンド・ハイジーン・スキャナー^{ゆき}を試していただきました。感染管理室・感染管理認定看護師の幸様からは「ブルーライト式を用いた指導では一度手を洗うに行く必要があり、ライト下での評価が不明瞭なときがあります。今回使用したスキャナーは、結果が一目瞭然と視覚に訴えられるためアルコールが塗られていない箇所、自身の手を消毒するための必要なアルコール量にも気づいてもらえたようです。データが残るため塗り残しの傾向を掴むことができ指導のポイントが明確になるのではないかと思います」というご感想をいただきました。大分岡病院ご関係者の皆様、大変お疲れ様でした。

社会医療法人 敬和会 大分岡病院
住所: 大分県大分市西鶴崎3-7-11
電話: 097-522-3131 (代表)
ホームページ: <http://www.oka-hp.com>
病床数: 224床 (2017年11月現在)

サクラとぴあ の 思い

サクラとぴあにて、勉強会を実施

サクラとぴあ事務局 担当: 上嶋^{うわじま}

Tel: 03-3553-8034 Mail: sakuratopia@sakurajp.com



サクラとぴあ



大スクリーンでの講義

サクラとぴあにて、神戸女子大学の洪愛子先生を講師にお招きして、感染制御に関する知識向上のための勉強会を全6回に渡り開催しています。

大きなスクリーンを使っ
ての講義は、少人数制であるため、講師と参加者が双方向のコミュニケーションを図ることができます。質疑応答では、参加者から「先生との距離が近く質問がしやすかった」、「一方向でな

く講師と参加者で確認ができ、一体感が生まれた」との感想をいただきました。

少人数での勉強会や講習会をご検討されている方は、ぜひサクラとぴあを活用されてはいかがでしょうか。ご希望の方は、最寄りの営業所またはサクラとぴあ事務局までご連絡ください。



質疑応答での双方向のコミュニケーション

編集後記

新年、明けましておめでとうございます。寒さも増しいよいよ冬本番となりましたが、皆さまいかがお過ごしでしょうか。

これから、インフルエンザ等の感染症が流行する季節になりますので、皆さましっかりと予防されご自愛ください。

本年も、皆さまのお役に立つ情報提供ができればと考えています。ご期待ください!

サクラ精機 ICEberg編集部
メールアドレス iceberg@sakurajp.com

QRコードを読み取ると、バックナンバーをご覧いただけます。



サクラ精機株式会社

編集・発行: サクラ精機株式会社 感染制御事業本部
〒104-0033 東京都中央区新川1-25-12 新川フロンティアビル
ホームページ <http://www.sakurajp.com>

